

Be Glocal

～未来を創る教育とネットワーク～



CONTENTS

- ✓ JICAの開発教育・国際理解教育支援事業
- ✓ グローカリストたちのアクション
- ✓ 新潟県によるESD支援
- ✓ いいがたNGOネットワーク
国際教育研究会(RING)について

グローバル
Glocalとは?
地球規模(グローバル)の
視野で考え、
地域視点(ローカル)で
行動すること



JICAの開発教育・ 国際理解教育支援事業

JICA(独立行政法人国際協力機構)では、開発途上国に対する国際協力の知見を活かしながら、日本国内での開発教育・国際理解教育の支援に取り組んでいます。



先生が見た途上国の実情を子どもたちへ伝える!

教師海外研修

教師海外研修は、開発教育・国際理解教育に関心をもっている教職員を対象に、世界の課題と日本との関係、国際協力の必要性について学ぶことを目的としています。JICA新潟デスクを管轄しているJICA東京では、研修テーマを「持続可能な開発目標(SDGs)」に設定。世界の課題を自分事として捉え、地域の抱える課題に目を向けて主体的に行動できる児童・生徒の育成を目指しています。

詳しくは [JICA 教師海外研修](#) で検索!



CHECK!!



先生としての経験を国際協力に!

JICA海外協力隊 現職教員特別参加制度

現職の教員が「教員」としての身分を保持したまま、JICA海外協力隊に参加する制度です。教員が国際協力に従事することにより、コミュニケーション・異文化理解の能力を身に付け、国際化の発展に必要な素養を児童・生徒に波及的に広めることが期待されています。

詳しくは [JICA海外協力隊 現職参加](#) で検索!



CHECK!!



あなたの言葉だから伝えられる想いがある!

国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト

JICAでは、途上国の実情や国際協力の必要性について理解を深め、私たちひとりひとりがどのように行動すべきか考えることを目的に、中学生・高校生を対象としたエッセイコンテストを毎年実施しています。

- 対象:中学生・高校生
- 募集期間:毎年6月～9月下旬
- 結果発表:毎年12月下旬

詳しくは [JICA エッセイコンテスト](#) で検索!

CHECK!!



日本にいてもできる国際協力!

「世界の笑顔のために」プログラム

途上国で必要とされている、教育、福祉、スポーツ、文化などの関連物品を寄付していただき、JICA海外協力隊を通じて世界各地に届けます。募集期間は年2回。個人の参加はもちろん、学校やクラス単位でもご応募いただけます。

詳しくは [JICA 世界の笑顔](#) で検索!

CHECK!!



誰でもできる国際理解教育のススメ!

先生のお役立ちサイト

開発教育・国際理解教育や総合的な学習の時間に役立つ冊子や動画等の教材を無料で提供しています。授業に合わせてぜひご活用ください。

詳しくは [先生のお役立ちサイト](#) で検索!



CHECK!!



いつもの教室で、世界を体験してきた講師と学ぶ!

国際協力出前講座

「途上国の文化や生活を知る」「講師の経験から自分たちに出来ることを考える」「講師の生き方を通じ、キャリアを考える」「SDGsについて」など、ご希望のテーマや内容に応じてJICA海外協力隊経験者を講師として紹介します。

- 対象:小学生～一般
- 費用:講師への謝金・交通費のご負担をお願いします。

詳しくは [JICA東京 国際協力出前講座](#) で検索!



CHECK!!



JICA新潟デスクのESD(持続可能な開発のための教育)について

JICA新潟デスクではJICAの開発教育・国際理解教育支援事業を通じて、また県内の多様なアクターと協働しながら、学校における開発教育・国際理解教育の支援を行っています。近年ではSDGs(持続可能な開発目標)が注目を集めており、学習指導要領にも「持続可能な社会の創り手」の育成が盛り込まれています。そんな中、先生方からは「子どもたち

に地球規模の課題をどのように「ジブゴト化」させたいのか?」「課題に対して子どもたちでも取り組める活動は?」といったお悩みの声が多く寄せられています。このパンフレットでは、先生方のお悩みのヒントになるようなJICA事業や県内事業、そして実際に県内で活動しているグローカリストたちを紹介します。

JICA新潟デスク 宮 由衣



JICA新潟デスクのFacebookページはこちら!



■【JICA新潟デスク】新潟市中央区万代島5-1 万代島ビル2F(公財)新潟県国際交流協会内
TEL:090-4024-1323 Email:jicadpd-desk-niigataken@jica.go.jp

グローバルリストたちのアクション

JICAの開発教育・国際理解教育支援事業や県内事業を活用しながら、子どもたちに学びを届け、自らも学び続ける「グローバルリスト」たちをご紹介します。

中学校教諭として地域とともにSDGsを伝える



増田 有貴さん

Q1 ESD・SDGsに向けて行っている現在の活動は？

荒川中学校でSDGsを視点にした授業デザインを広めています。「新潟巡検×SDGs」では、SDGsに取り組む県内の事業所や大学へのインタビューを通して「持続可能でレジリエントな社会」を考えました。学んだことをより多くの人に届けるために「国際理解教育プレゼンテーションコンテスト」に毎年参加。活動を通してさまざまな人たちの生き方に触れることで、生徒たちが多様な視点・視点を獲得していることを実感しています。彼らには「自分の行動が世界を変える力になる」ということを伝えています。

PROFILE.
Masuda Yuki

村上市立荒川中学校教諭。2016年度にタイへのJICA教師海外研修に参加。以来、国際理解教育やSDGsを軸とした教育実践を行う。国際教育研究会(RING)メンバー



左:「いがたSDGsフォーラム」に登壇。SDGsを取り入れた授業実践について講演を行った 右:2016年にJICA教師海外研修に参加した際、タイで撮影した写真

Q2 活動のきっかけは？

JICAの教師海外研修に参加した際に、国際理解教育やSDGsは身近にできることがたくさんあると気づきました。そこから自身のアンテナが高くなり、学びや行動の幅が広がったことで志のある仲間たちと繋がることで、教育に対するモチベーションや生き方が大きく変わりました。自分の経験やネットワークを活かし、生徒にホンモノと出会わせたい。そして生徒と共に学び、行動を起こしながら私自身も成長し続けたいと思い、活動を始めました。

Q3 今後目指したいことは？

SDGsに加え「レジリエンス」をキーワードにした授業実践を始めました。子どもたちは将来、新型ウイルスや災害など予想外のことが起こっても、絶望せずに柔軟に対応できる力を付ける必要があると思います。それをふまえて教育の可能性を広げたいと考えています。生徒たちが課題意識をもち、多様な他者と繋がりがながら、外に働きかけるためのアクションを起こせる環境を整えたい。今後のテーマは「持続可能で強くしなやかな社会を作る」です！

Q1 ESD・SDGsに向けて行っている現在の活動は？

「フリーランスティーチャー」としてESDに取り組んでいます。以前に比べてSDGsという言葉が浸透し、SDGsを教育活動に取り入れたいという学校が増えたように感じますが、それを学校内のみで賄うことは難しい。SDGsや国際理解を伝える活動をしていることがRING内でのネットワークや口コミを通じて伝わり、自治体や学校、地域サークル、NPO団体からの依頼をいただいて、出前授業や学習コーディネーターをしています。

Q2 活動のきっかけは？

高等学校に勤務していた当時、国際理解教育は優先順位の高い項目ではありませんでした。生徒たちに伝えたいものを持ちながら、そこにジレンマを感じていました。また、忙しい日々の中で現場の教員が現場を変えることへの限界と、私自身の経験不足を感じていました。そこで現場から一度離れ「フリーランスティーチャー」という形で教育に関わりながら、国際理解教育やSDGsに関わる実践力を身に付け、俯瞰して教育を見つめ直したいと考えました。

PROFILE.
Seki Megumu

「フリーランスティーチャー」として県内を中心に活躍。出前授業や教員研修、セミナー、イベントを通して国際理解教育や持続可能な社会づくりについて実践・協働を図る。国際教育研究会(RING)企画副委員長

左:2010年にJICA教師海外研修に参加。派遣先のブータンでの様子 右:県内のカフェにて親子向けに行ったSDGsについての講話の様子



関愛さん

学校の外から教育を支えるフリーランスティーチャー



Q1 ESD・SDGsに向けて行っている現在の活動は？

平和で持続可能な社会を目指す心を育むため、当時小学5年生の息子とウガンダへのスタディーツアーに参加。私も息子も日本とは全く違う環境に衝撃を受けました。そこでの体験をより多くの人に伝えようとRINGセミナーで発表したり、作ったアルバムをカフェに設置したりしています。

Q2 活動のきっかけは？

世界で起きている紛争や児童労働、環境問題などの悲惨な現実、他人事ではなく、私たちの生活と繋がっていることを知り、支援したいと思うようになりました。そんなときに「難民を知る」というテーマで行われたセミナーに参加し、同じ価値観をもつ仲間がいるRINGに出会いました。



左:ウガンダでの写真。最初は戸惑いもあったが、やがて現地の子どもたちと打ち解けた 右:ウガンダでの学びをRINGセミナーで発表。アフリカの楽器を使ったアイスブレイクを行った

Q3 今後目指したいことは？

世界を変えるために必要なのは子どもたちへの教育。学校だけでなく、地域や社会が一体となってSDGsという大きな目標に向かい、彼らの意識を導くこと、その学びを大人になっても活かし続けられる社会・職場環境を整えることが大切だと思います。彼らが多様な価値観に出会い、心を成長させる場を作っていきたいです。

PROFILE.
Ochiai Kazuyuki

消防士として働く傍ら、日常生活や子育て、仕事を通して持続可能な社会づくりに取り組む。国際教育研究会(RING)メンバーとして、学びの共有や啓発活動を行っている



落合 一行さん

ESDを活かし、実践できる社会づくりを目指す

幼児教育の現場で異文化理解を促す



神田 綾子さん

Q1 ESD・SDGsに向けて行っている現在の活動は？

勤務先のこども創造センターでは子どもと保護者を対象にして、異文化体験のイベントを行なっています。JICAや新潟県国際交流協会と協働しながら、オンラインで外国の子どもたちとお絵かきをするワークショップや世界の民族衣装を着る体験など、遊びや交流を通して世界に興味をもってもらえるような企画を開催しています。

PROFILE.
Kanda Ayako

JICA海外協力隊としてドミニカ共和国で音楽隊員を経験。新潟市こども創造センターの職員として、遊びや地域の人々との交流を通じた子どもたちの異文化体験をサポートしている

Q2 活動のきっかけは？

音楽教室で講師をしていたとき、JICAの「世界の笑顔のために」プログラムで途上国に楽器を贈り、その楽器を演奏している動画がお礼に送られてきました。それを見て、外国の子どもたちと音楽を奏でたいと思い、JICA海外協力隊に参加。現地の子どもは日本文化に興味をもってくれたので、日本の子どもも世界のことを知りたいのではないかと思い活動を始めました。

左:JICA海外協力隊員としてドミニカ共和国に派遣。現地の子どもたちに音楽を教えた当時の様子 右:クリスマスイベントでの民族衣装体験



Q1 ESD・SDGsに向けて行っている現在の活動は？

JICA国際協力出前講座の講師として、ブータンでの協力隊経験を新潟の子どもたちに伝える活動をしています。現在は、佐渡で地域おこし協力隊として学校と地域コミュニティを繋げるために子どもたちの放課後支援をしています。宿題だけではなく、テーマを決めて探究的な課題に取り組んでいくことが、国際理解力の育成に繋がると考えています。

Q2 活動のきっかけは？

大学生のときに経験したフィリピンでのボランティアで、現地の子どもたちの成長と変化を目の当たりにして、海外で教育に携わりたいと思うようになりました。卒業後はすぐに、JICA海外協力隊に参加。派遣先のブータンでは保健体育の教師として、子どもたちに体育を教えるとともに、現地の教員に授業の指導をしていました。

Q3 今後目指したいことは？

子どもたちが勉強できるカフェや図書館のような場を佐渡に作りたと思っています。学校や家庭とは違う学び場で、中学生や高校生が交流し、彼らに夢や目標を語り合ってもらいたい。子どもたちが日本の外に目を向けるきっかけになって「自分たちで何かやってみよう」という話になればいいなと思っています。

PROFILE.
Iokawa Tasuku

JICA海外協力隊としてブータンで体育隊員を経験。佐渡市地域おこし協力隊として子どもたちの放課後活動の支援を行っている。学校でのJICA国際協力出前講座にも精力的に取り組む

左:体育隊員として子どもたちにストレッチを指導 右:小学校でのJICA国際協力出前講座。異文化理解をテーマに、ブータンの文化と幸せについて伝えている



協力隊での経験を地域おこしに還元



五百川 将さん

新潟県によるESD支援

新潟県では「新潟県国際交流協会」を中心に、国際理解教育を含むESD(持続可能な開発のための教育)の支援を行っています。

新潟県国際交流協会の事業内容

公益財団法人新潟県国際交流協会は、県民による国際交流、国際協力及び多文化共生の地域づくりを推進しています。国際理解教育支援事業として代表的なものは、以下の3事業です。

■【新潟県国際交流協会】新潟市中央区万代島5-1 万代島ビル2F TEL:025-290-5650 Email:nia21c@niigata-ia.or.jp

国際理解教育プレゼンテーションコンテスト

地球規模での問題、多文化共生、日本と海外との関係における問題などについて、県内の中学生・高校生が学んだことや考えていること、行動したいと思っていることをチームで発表します。毎年12月に朱鷺メッセ国際会議室(マリンホール)で、中学生部門と高校生部門に分けて実施し、部門ごとに最優秀賞、優秀賞、審査員奨励賞を決定しています。



令和2年度プレゼンテーションコンテストの様子

国際交流ファシリテーター養成事業 国際理解ワークショップ

県内の5大学(新潟国際情報大学、敬和学園大学、新潟県立大学、上越教育大学、新潟大学)の大学生・大学院生を国際交流ファシリテーターとして委嘱。「世界の現実」「世界の不平等」「異文化理解」のいずれかのテーマについて話し合い、課題に向き合うワークショップを小・中・高校生等を対象に行います。



「世界の不平等」をテーマにしたワークショップを小学生を対象に行っている様子

教員向け国際理解教育セミナー

県内における国際理解教育の充実と進展を図るための、小・中・高等学校の教員を対象としたセミナーです。近年は、多様な背景をもつ子どもたちが増えていることから、学校内での多文化化に焦点を当て、教員自身がさまざまな文化や価値観に目を向けるきっかけになるようなセミナーを開催しています。



令和元年度に行った教員セミナー

その他の関連事業の紹介

「学ぼう新潟の知恵」支援事業

キャリア教育講師として 協力隊経験者を派遣!

キャリア教育連携促進事業の一環として、学校への講師派遣を支援する事業です。「JICA新潟デスク」も国際理解教育分野の講師として、講師リストに登録されています。

●対象学校:県立及び市町村立(新潟市を除く)小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校

CHECK!!



■【新潟県立教育センター
キャリア教育推進ステーション】
新潟市西区曾和100-1
TEL:025-263-9028

地域創生プラットフォーム「SDGs にいがた」

SDGsに取り組む企業や団体、 学校が多数参加!

「SDGs にいがた」は、新潟県でSDGsに基づく企業活動や地域づくりを推進し、経済・社会・環境の好循環を地域に生み出すため、産官学が連携して創設したプラットフォームです。SDGs関連情報を収集・発信して、企業、自治体、教育・研究機関、各種団体、地域のネットワークを広げ、それぞれのSDGs課題に取り組めるよう後押ししています。

■【地域創生プラットフォーム SDGs にいがた
準備会事務局(新潟日報社統合推進センター)】
新潟市中央区万代3-1-1 新潟日報メディアシップ内
TEL:025-385-7473
Email:sdgs@niigata-nippo.co.jp

CHECK!!



にいがたNGOネットワーク 国際教育研究会(RING)について

RINGは新潟県において持続可能な社会の担い手および教育実践者を増やすために、身近なところから行動を起こすきっかけの場や環境づくりに取り組んでいます。



にいがたNGOネットワーク代表挨拶



にいがたNGO
ネットワーク理事長
荒 幸男さん

国際理解教育の 更なる充実を

国際協力推進の人材育成のために、学校での国際理解教育を充実させる必要があるという認識のもと、2012年12月、にいがたNGOネットワークの国際教育研究会が発足しました。徐々に参加教職員が増える中、JICA新潟デスクの方から、教師海外研修の参加教員による国際教育の授業実践報告を国際教育研究会の研修に組み込む提案をいただきました。それは当研究会の願うところでもあり、2013年度から今日まで継続しています。現在、多数の教職員がRINGで活躍していますが、多くはJICA教師海外研修の経験者であり、新潟県の国際理解教育推進と国際協力実践の中心的な役割を担っています。また、教職員以外の県民の方がRINGに参加されていることも嬉しく思います。今後JICAはもとより、他の関係機関とも一層連携を深めることで、国際理解教育の更なる充実を期待したいと思います。

RING代表挨拶



RING
企画委員長
小黒 淳一さん

明日もこの星で あなたとともに

私は2006年にJICA教師海外研修でカンボジアに行きました。現地では衝撃的なことがたくさんありました。でも、私が強く衝撃を受けたことは、日本に帰国した時に乗った電車で目にした日本人の表情の無さでした。当時、カンボジアは経済的に豊かとは言えない状況でしたが、そこには「生きている」表情がありました。日本は先進国なのですが、私の目に映る日本人の顔はお辞儀にも幸せそうではありませんでした。豊かさって何?経済的に豊かになることが幸せなの?日本はカンボジアよりも教育が普及しているけど、その教育にどんな意味があるの?そのような疑問が次々と湧いてきました。どんな人でも、大きく考えればみんな同じ星に生きる地球人。地球のことを知り、互いを認め合い、共に幸せに生きていくにはどうしたらよいかを考え、行動していく。そのような教育が大切ではなかるうかと思ひ、教育実践を重ねてきました。今ではRINGという素敵な仲間と学びの場があることで、私はもっと安心して伸び伸びと学び、豊かな人生に繋がっています。心がワクワクすることに素直に、これからも魅力ある出会いと学びの場を創造していきます。ぜひご参加ください。明日もこの星で、あなたとともに。

RINGの沿革

2012年 第1回 国際教育研究会

国際理解教育推進と指導者の育成を目的に、にいがたNGOネットワーク(以下、Nネット)内の勉強会として開催。

2015年 JICA東京主催 ネットワーク協議会に参加

小黒(現企画委員長)を含めた数名が、ネットワークを活用しながら国際理解教育を推進するための知見を学ぶ。その後、JICA教師海外研修経験者が中心となり国際教育研究会を運営することが決定し、JICA新潟デスクも含めた企画委員会を発足。

2016年 第10回 国際教育研究会

新たな運営体制で開催する「キックオフ」となった会。JICA海外協力隊経験者や海外の日本人学校教員経験者などが集い、さまざまな視点から国際理解教育やESDについて学ぶとともにネットワーク構築への第一歩となる。

第11~13回 国際教育研究会・にいがた国際フェスティバルにブース出展
ファシリテーションや児童労働をテーマに講師を招いて開催。年度最後の会では、JICA教師海外研修報告会をJICAと共催で行い、次年度以降定例となる。また、Nネット主催の「にいがた国際フェスティバル」に初めてブースを出展する。

2017年 第14~16回 国際教育研究会・学びあいフォーラムに参加

研究会を上越にて初開催。また、持続可能な地域社会づくりに取り組む全国の団体とともに「学びあいフォーラム」(開発教育協会主催)に参加し、ビジョンやミッションを再考。研究会の愛称を「RING」に決め、Facebookページを開設。

2018年 第17~21回 国際教育研究会・SDGs-DAYにて発表

研究会を年5回に増やし、新潟県国際交流協会の国際交流ファシリテーター事業等との連携により内容の充実を図る。また、Nネット内の団体(NVC)と協働して教材も開発。地域連携の好事例として、RINGの取り組みを「SDGs-DAY」(JANIC主催・東京)において発表。

2019年 第22~26回 国際教育研究会・JICA教師海外研修ネットワーク報告会にて発表

研究会を初めて佐渡で開催し、年間で上越、中越、下越、佐渡の県内全域で実施。総勢25名(当時)のメンバーと協力し合い、多様なリソースと連携しながら満足度の高い研究会を創造するRINGの取り組みを、JICA教師海外研修ネットワーク研修会(東京)において発表。

2020年 第27~29回 国際教育研究会・パンフレットとロゴを作成

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、研究会をオンラインにて開催。RINGを含め、SDGsや国際理解教育の推進に関わる新潟の様々なアクターをまとめたパンフレットとロゴを作成。

RINGの活動内容

●国際教育研究会(RINGセミナー)の開催

毎年県内各地、またはオンラインでセミナーを実施! 教育関係者だけでなくさまざまな職種の方や、大人から子どもまで参加します。

●地域のイベント・セミナーへの協力

「にいがたフェアトレードフェスティバル」などのイベントに協力し、講演やブース展示などを行っています。

●学校・先生方への協力

出前講座や教員研修を通して、学校での授業実践や探究活動をお手伝いしています。



お気軽に
ご相談・ご参加ください!

RINGの
Facebookページは
こちら!

